

1

あれ、観客がイチゴを食べているけど？

ウィンブルドン選手権の名物となっているのが、「ストロベリー & クリーム」。日本における夏の甲子園での「かち割り氷」と同様に、これを食べながらテニス観戦するのが風流とされている。息を呑むような接戦でも、観客席に目を向けるとのんびりとイチゴを食べている人の姿を見つけることができるはずだ。

一説によると、ストロベリー & クリームのレシピが開発されたのは15世紀前後となるチューダー朝の時代。離婚問題で有名なヘンリー8世が当時暮らしていたハンプトン・コート宮殿では、1200人もの人々が生活をしていて、そこで、ストロベリーに生クリームをかけるだけという、準備のほとんど要らないこの料理が宮殿の人気メニューになったという。またヘンリー8世はテニスの愛好者でもあった。ハンプトン・コート宮殿内にテニス・コートをつくり、自身も熱心にプレーしていたと伝えられている。こうした宮廷文化を通じて、テニスとイチゴが結びついた可能性が高い。

ちなみにウィンブルドン選手権の会場では、イングランド東部ケント州で収穫されたイチゴを販売。大会期間中のイチゴの消費量は2万8000キロに達するという。



ウィンブルドン名物のストロベリー & クリーム

2

チケット・サイトで販売されている 入場券が高すぎる！

インターネット上のチケット・サイトなどで目にするウィンブルドン選手権の入場券は、数千ポンド単位で販売されているものがざらにある。一方で当日券は数十ポンドから販売。なぜこれほどまでに価格の差が生じてしまうのか。

インターネット上で販売されているチケットの多くは、通常「債権者用チケット」と呼ばれているもの。ウィンブルドン選手権では、施設の保守・改築などにかかる費用を確保するために債券を発行している。この債券が株のような形で売買取引されており、しかも購入希望者が非常に多い。

例えばセンター・コートの設備投資に充てる債券の最新の発行価格は5万ポンド(約960万円、5年満期)。この債券の持ち主には大会期間中、毎日1枚のセンター・コートへの入場券を提供。転売することが公式に認められている。インターネット上に出回っている高額なチケットの多くは、これらの債券保持者が売り出したものなのである。

テニスの

観戦中にイチゴを
食べるのはなぜ？

ウィンブル まつわる

5

勝てばどれだけの賞金が もらえる？

今大会におけるシングルス優勝者の賞金は、男女ともに188万ポンド(約3億6000万円)。賞金は、勝者だけに与えられるわけではない。1回戦負けを喫した選手に対しても、2万9000ポンド(約550万円)が支給される。つまり一試合を行っただけで、英国人の平均年収である2万6500ポンドを超える賞金を手にするようになるわけだ。2回戦負けは4万7000ポンド、3回戦負けは7万7000ポンドといった具合に、勝ち進むに従って賞金は増額していく。

ダブルスの優勝者には一人につき34万ポンド(1回戦負けは9000ポンド)、混合ダブルスは同10万ポンド(同1500ポンド)、車いすテニスのダブルスは同1万5000ポンド(同4000ポンド)。これらすべて合わせた賞金総額の高さは、テニスの大会の中でウィンブルドン選手権が世界一である。



ちなみに優勝者に与えられるトロフィーは大会終了後にすぐに返却しなければならないという

7

ライン際のボールに対する映像判定は どういう仕組みになっている？

クレイ・コートで行われる全仏オープンと異なり、ウィンブルドン選手権が使用している芝コート上ではボールの痕跡が残らない。そこでボールがコートの内側に入ったかそれともアウトになったかの見極めが微妙なときに利用されている判定技術が、ホーク=アイ(タカの目の意)だ。この技術を開発した英国人技術者ポール・ホーキンス氏の名字を取って名付けられた。

同技術では、コートの周囲に10台の高速度カメラを固定。これらのカメラを使って様々な角度から撮影した映像を基にして、ボールの軌道を再構築する。あくまで統計学的な分析の結果を反映したものであり、実際のボールの軌道を100%再現するわけではないことから、ホーク=アイの判定結果を疑問視する向きも一部ではある。

選手は、審判が下した判定に納得できない際にアピールしてホーク=アイの判定を仰ぐことが可能。1セット中に自身のアピールが3回間違っていた場合、つまり審判の判定が正しいと証明された場合は、同セット中にそれ以上アピールする権利を失う。

テニスのウィンブルドン選手権が6月29日から開幕する。大会中に繰り広げられる熱戦の様子は、英国国内ではBBCがテレビ、ラジオ、インターネットを通じて大々的に中継。また日本でもいくつかの注目の試合が放送される。今までテニスには興味がなかったが、この機会に日本人選手の応援を楽しみたいという人も少なくないだろう。ウィンブルドン選手権を観戦しながらふ

8

日本人観客がやけに多いのはなぜだろう

テレビ中継などで映し出されるウィンブルドン選手権の会場を見渡すと、思いのほか日本人観客が多いことに気付く。観戦を目的に日本からわざわざ来英する人も多く、日本人選手が出場する試合では、会場のほぼすべてが日本人観客で埋まることさえある。

実はウィンブルドン選手権が、初めて海外マーケティングを行った国が日本だった。同選手権はそのほかの主要なスポーツの大会と異なり、会場全体にわたって特定のスポンサーのロゴを大きく張り出すことがない。このため、チケット販売やテレビ放映権に加えて貴重な収入源となっているのが関連グッズの販売。このグッズ販売のマーケティングを始めた場所が1970年代の日本だったという。

その理由は、当時の日本におけるゴルフ人気だった。ゴルフ関連ビジネスの成功事例からスポーツ好きそしてブランド好きという日本人の傾向に目を付けたウィンブルドン関係者が、日本での展開を企画した。また日本であれば、たとえグッズ販売事業に失敗したとしても、英国の人々はその事実にも誰も気付かないだろうという考えもあったという。



運営スタッフなどが使うウィンブルドン特製の傘も人気グッズの一つ

3

選手が踏み荒らしているはずなのに コートの芝があまりに美しい

コートは一年にわたり厳しく管理されている



緑色が美しく映えるウィンブルドンの芝。全20面の芝コートが、16人の芝職人によって一年を通じて管理されている。芝の長さは8ミリに統一。とりわけ決勝戦の舞台となるセンター・コートが使用されるのは本大会期間中のみ。大会終了直後に芝を毎回新しく植え替えるなど徹底した管理が行われている。芝へのこだわりは、ウィンブルドン選手権の発祥にも深く関係している。19世紀末のある日、ウィンブルドン地区にあった会員制のテニス・クラブが利用する芝コートの芝刈り機が故障。この機械の修理費を捻出するという目的で1877年に初めて開催された大会が、現在のウィンブルドン選手権の原型となった。言うなれば、ウィンブルドン選手権のために芝コートがあるのではなく、芝を美しく管理するためにこの大会が始まったのだ。

日本人の観客が多い理由とは？

ドン選手権に 10の疑問

と思いがちな疑問に答える形で、この大会をより楽しく深く観戦するための秘話を紹介する。

The Championships, Wimbledon
6月29日(月)～7月12日(日)
The All England Lawn Tennis Club,
Church Road, Wimbledon, London SW19 5AE
Tel: 020 8971 2473 Southfields駅
www.wimbledon.com

9

何人の日本人選手が出場する？

今大会での活躍が期待される日本人選手と聞いて、誰もが真っ先に思い浮かべるのが錦織圭選手。6月10日現在、男子シングルの世界ランキングで5位。先日行われた全仏オープンでは準決勝進出を果たしたばかりだ。その錦織選手がウィンブルドン選手権に出場したのは過去6回で、最高成績は昨年の16強進出。球足が速いために、高速サーブを打つ選手に有利に働くウィンブルドン独特の芝コートを不得意としているとも伝えられている。

錦織選手を含め、現時点では計3名の日本人選手が本戦への出場権を持つ。加えて、22日から開始される予選を勝ち抜いた選手も登場。またダブルスの試合のみが行われる車いすテニスには男子に国枝慎吾選手、女子に上地結衣選手の出場が見込まれており、ともに優勝が期待されている。

6月10日時点で今大会への出場を予定している日本人選手
※ カッコ内は世界ランキング(5月18日時点)

男子

- 錦織圭 (5位)
- 添田豪 (90位)

女子

- 奈良くるみ (56位)



Photo by DAVID LILIF.
License: CC-BY-SA 3.0

活躍が期待される
錦織圭選手

4

選手のユニフォームが そろいもそろって白いのはなぜ？

ウィンブルドン選手権では、各選手が着用するユニフォームの色を白に統一するようにとの規則がある。帽子、バンドナ、靴下、靴まで白でなければならない。また汗で透けてしまう可能性を鑑みた上で「見えるもしくは見える可能性がある」下着の色までも白でなければならないというのだから、かなり厳しい。

毎年この厳格な規定をめぐる、多少の混乱が発生する。最近では、男子テニスの世界ランキング2位(6月10日時点)に位置しているロジャー・フェデラー選手が、靴底がオレンジ色の靴を着用したために注意を受けたと報じられた。多くの場合、問題があると指摘されたユニフォームを選手が別のものに取り換えることで事態は収まっているようだ。



AE/TC / Scott Heavey

昨年の覇者、ノバク・ジョコビッチ選手(左写真)とベトラ・クビト選手(同右)のユニフォームも真っ白だった



AE/TC / Florian Eisele

6

テニスの得点制度が いまいちよく分からない

テニスの得点制度は、「ポイント」「ゲーム」「セット」という3段階に分かれている。4ポイント(15、30、40、ゲーム)を先取すれば1ゲーム、6ゲームを先取すれば1セットを獲得。男子のシングルスとダブルスのみ3セット、そのほかの試合は2セットを先取した方が勝者となる。

各ゲームにおいて、対戦する選手がともに3ポイント、つまりスコアが40-40と並んだ場合は「ジュース」となり、2ポイント差がつくまで戦い続ける。またゲーム数が6-6、つまりセット獲得に向けて王手を賭けた状態で両者が勝ち得たゲーム数が並んだ場合は「タイブレーク」となり、7ポイントを先取した方がセットを奪取。ただし、タイブレーク中にポイントが6-6となった場合は、2ポイント差をつけなければセットを獲得できない。

さらにウィンブルドン選手権では、最終セットにはタイブレークが適用されない。最終セットでゲーム数が6-6で並んだ場合、どちらかが2ゲームを連続して奪うまで試合は延々と続く。2010年大会の1回戦に登場したジョン・イスナー(米国)対ニコラ・マユ(フランス)の試合では、最終セットだけで138ゲームが実施されるという事態が発生。総計で11時間5分、3日かけて行われたこの試合は、テニスの史上最長試合として記録されている。

10

どうすれば憧れのセンター・コートで 観戦できる？

ウィンブルドン選手権は、手頃な価格で比較的容易に当日券を入手することができる数少ない世界的なスポーツ・イベント。当日券が毎日数千枚単位で販売されています。この当日券を販売する列に並べば、ジョコビッチやマリー、シャラポワといった一流選手が登場するセンター・コートでの観戦も決して夢ではありません。英国ニュースダイジェストのウェブサイト(www.news-digest.co.uk)では、「ウィンブルドン選手権の当日券を得るための必勝ガイド」を入手可。詳細は、上記ウェブサイトを参照ください。

